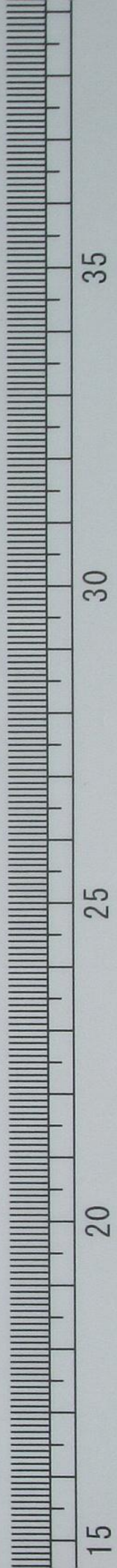




西洋雜誌 第一集 全

柳田文庫  
文庫11  
A1427





文庫11

A/427

鳥山啓譯

# 西洋雜誌

官許

書友社藏板



書

造化之効驗見ルベクシテ測ルベカラサル  
 命シテ神ト言フ神ニ續モノハ人ナリシ  
 カレドモ人各其見聞廣狹ノ異ルアルナ  
 リ一國ノ事ヲ見一國ノ事ヲシルモノハ  
 一國ノ人トイヒ萬國ノ事ヲ聞萬國ノ

西洋雜誌

卷之二

三十三



事ヲ知ル者ヲ萬國ノ人トイフ孔子曰  
子固齊人ナリ一日剗刷氏鳥山先生ノ  
纂ムル西洋雜誌ヲ携来リ余ニ序  
ヲ徴ス之ヲ觀ルニ彼ノ神ノ形想ノ如キ  
ハ余イマダ知ザルナリ然リト雖下モ亦  
智ヲ関キ俗ヲ化スルニ裨益少ナカラ

ス故ニ辞セズシテ序ス

播磨

八木貴識





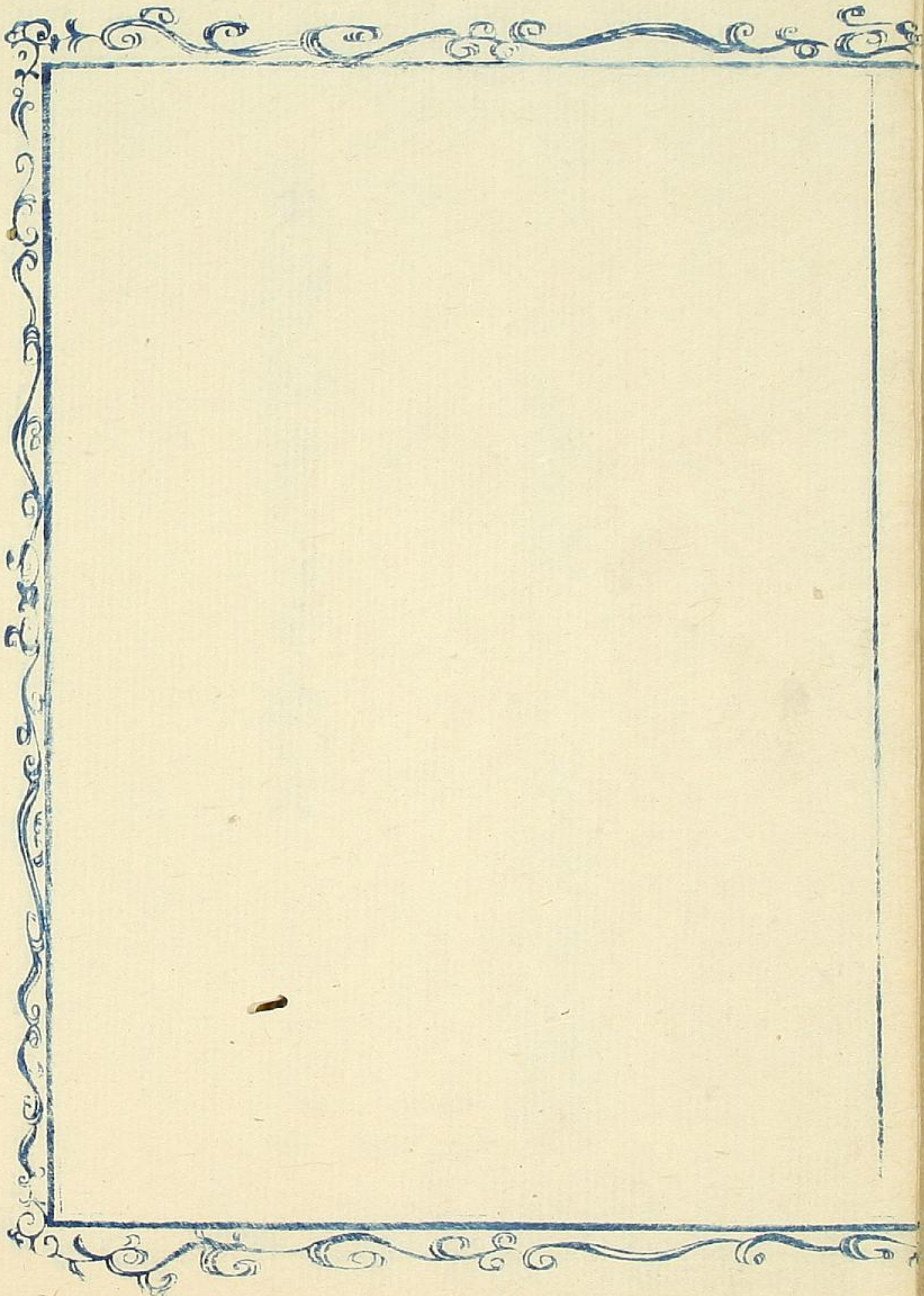


西洋雜誌初集

凡例

此書ハ余洋籍ヲ讀む間ハ心ノとま休條々ヲ撰  
 出でさうが己まて一いつ冊子さつしともふべき程ほど出  
 たりたるをバ書肆しよせいの請こふみまうせて之こを櫻板おうばんニ  
 としのて狂弟きやうてい二集ふたしゆ弟三集ていさんしゆと相續あひつづきて刊行かんかうし及  
 ばんといふ

書中要用しよちゆうようふる語ごハその右みぎニ——と記しし地  
 名めいハその右みぎニ——と付つし官名くわんめい人名にんめいハ其その





左ふ——と記し——

地名人名など皆片假名を以て書し假令バ亜  
細亞亞弗利加など書くも元來音譯にして字義  
ありふありざまばなり但し英國仏國などのめ  
きハ便み從ひて真字を用ぬこと  
原書の如きハ一々その名を掲げんといへども  
皆英亜の書より譯出——ものあり

鳥山啓識

西洋雜誌初集目錄

天体の名義

西洋十二月の名義

紙書物等の名義

トレードウインドの名義

スノードロップの事

ユーニコルンの事

各國の古傳并土人未來想像の事

人幼稚より絶て人間に交らざまば智力少し



も増さざる事

西洋の女子胸部細小なる事

萬國言語の事

西洋文字の事

西洋あて啞者或ハ聾者ハ文字を知らざる事

様の事

洋詩の事

西洋雑誌初集目錄終

西洋雑誌初集

和歌山縣

鳥山啓纂緝

天体の名義

英語にて日とソシといふをラテン語のソルと

いふ詞より轉せるものありて太陽系統をソラル

システムといひ夏日戴く帽子をソラルハツト

といふふたどソルといふ詞を働らるせざるもの

みて即ちソラルをソルといふことありき



てソルといふ者アポロといふギリシヤ教の神  
 の一名あり此神ハ日と司と神みてジユピタ  
 ルといふ神の子ありといふまゝ月とムーンと  
 いふを測るといふことゝあて古昔ハ月の盈虚  
 を見て年月と量りしが故ありまゝ月食とリユ  
 ナルエキリプスといひ太陽曆の月とリユナル  
 モントといふ者どりユナルといふ詞をリユナ  
 といふギリシヤ語と働らあせしものあてこ  
 のリユナといふハ月の事ありさてまゝとリユナ

といふ者ジエナといふ女神の一名ふて此神ハ  
 月を司と神ありといふ

日神 アポロ



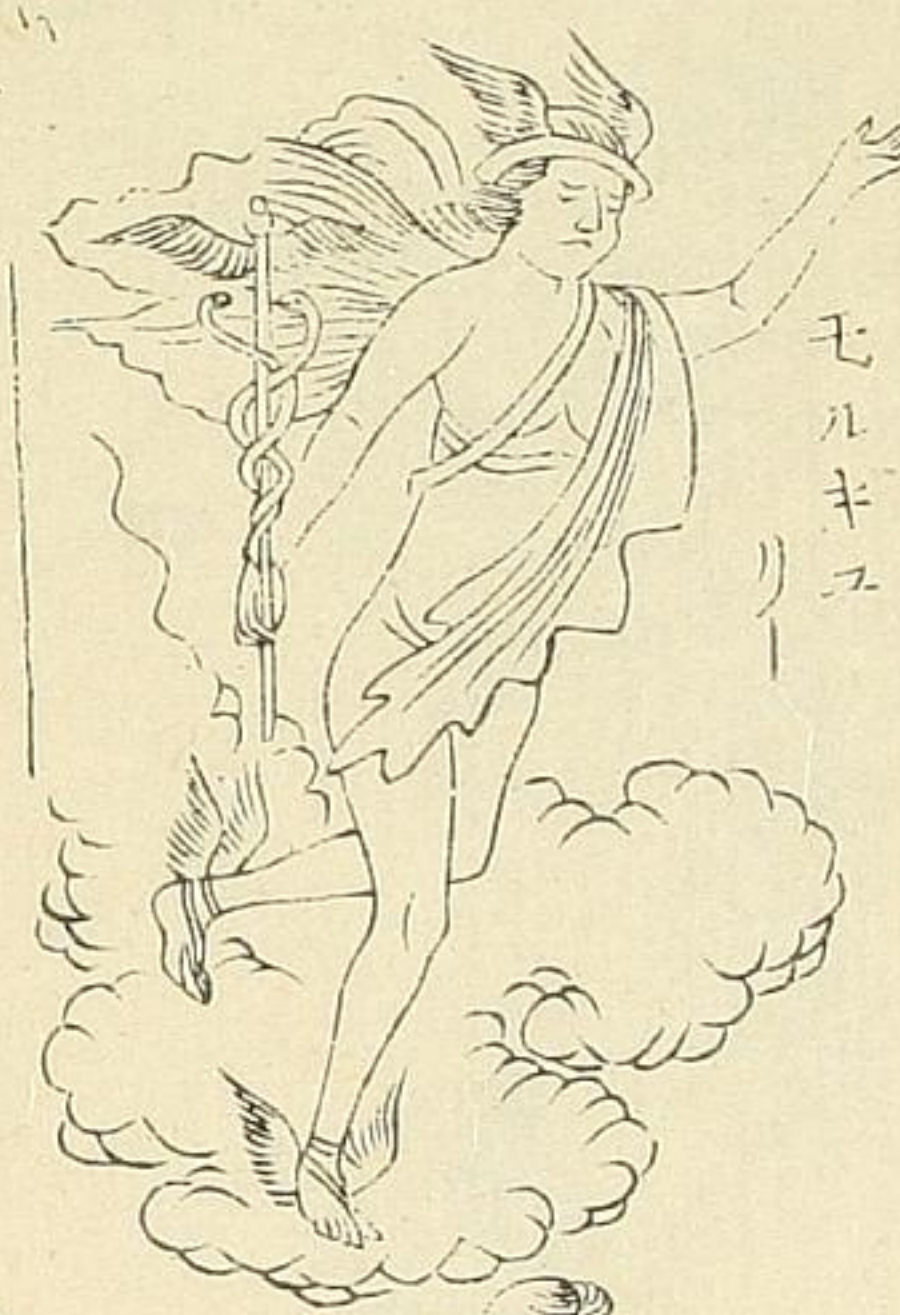
月神 ジエナ



水星とモルキュリーといふことせもギリシヤ教の  
 神名ふて其神をジユピタルの子アポロと兄



弟<sup>にい</sup>ふ<sup>この</sup>神<sup>かみ</sup>ハ<sup>しよ</sup>諸<sup>しよ</sup>天神<sup>てんじん</sup>の使者<sup>しや</sup>と勤<sup>つとめ</sup>とふ<sup>し</sup>且<sup>かつ</sup>初<sup>はつ</sup>めて<sup>め</sup>文字<sup>もじ</sup>を制<sup>せい</sup>し<sup>ま</sup>言<sup>げん</sup>語<sup>ご</sup>商<sup>しやう</sup>賣<sup>ばい</sup>と司<sup>し</sup>り<sup>盗</sup>賊<sup>ぞく</sup>と防<sup>ぼう</sup>ぐ<sup>事</sup>事<sup>こと</sup>と掌<sup>つとめ</sup>る<sup>神</sup>神<sup>かみ</sup>あり<sup>といふ</sup>



メルキユ



ウエニユス

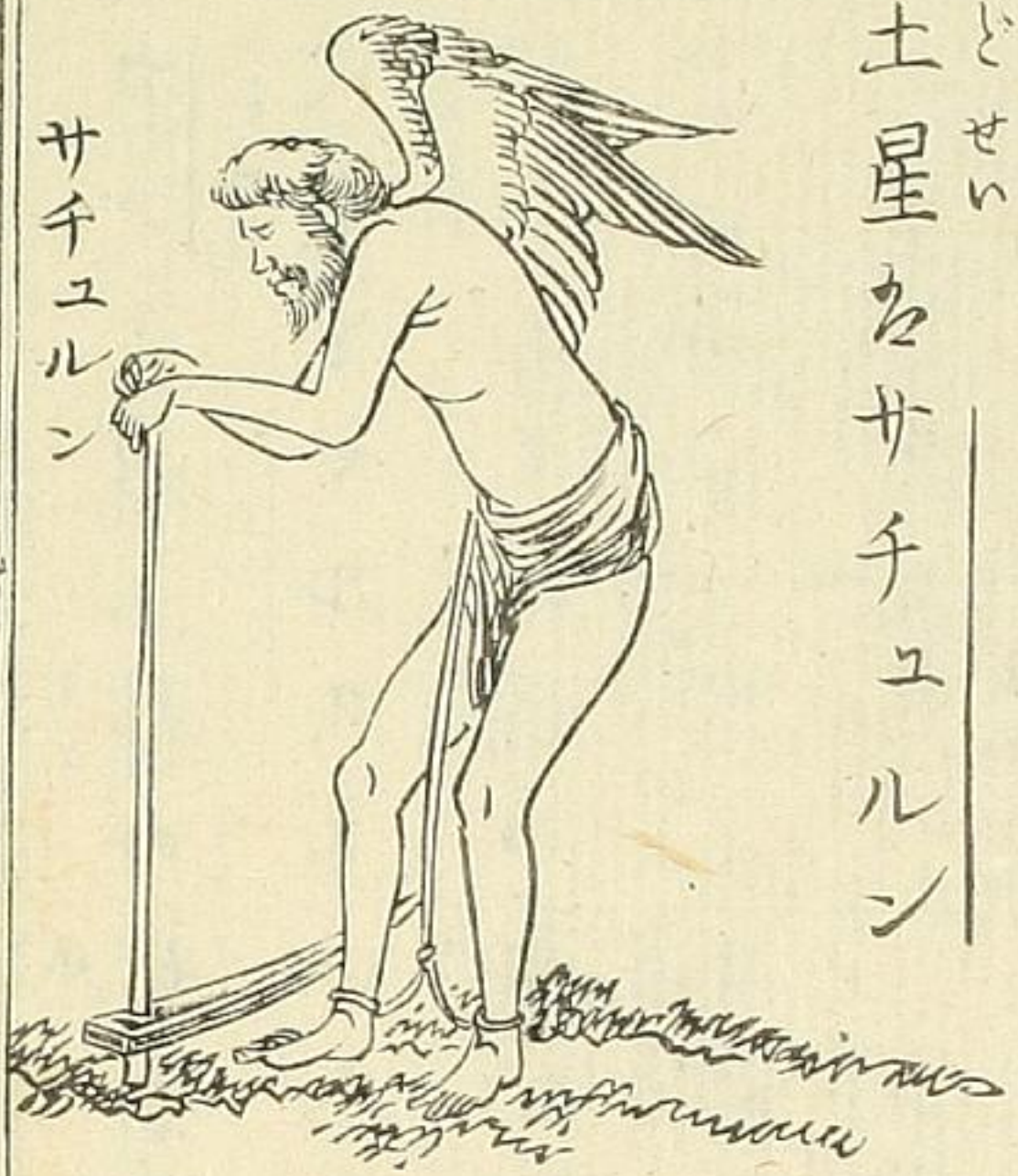
金星<sup>きんせい</sup>とウエニユス<sup>といふ</sup>も<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>神<sup>しん</sup>名<sup>な</sup>み<sup>い</sup>て<sup>愛</sup>憐<sup>あひ</sup>觀<sup>かん</sup>樂<sup>らく</sup>美<sup>み</sup>嚴<sup>げん</sup>等<sup>とう</sup>の事<sup>こと</sup>と司<sup>し</sup>ど<sup>く</sup>女神<sup>めいじん</sup>あり<sup>ホル</sup>

カシ<sup>かし</sup>といふ<sup>神</sup>神<sup>かみ</sup>の妃<sup>い</sup>あり<sup>といふ</sup>  
 火星<sup>たいせい</sup>とテルス<sup>といふ</sup>も<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>神<sup>しん</sup>名<sup>な</sup>み<sup>い</sup>て<sup>戰</sup>闘<sup>とう</sup>の事<sup>こと</sup>を司<sup>し</sup>  
 どの<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>あり<sup>即</sup>ち<sup>本</sup>本<sup>ほん</sup>邦<sup>ぱう</sup>も<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>神<sup>しん</sup>名<sup>な</sup>み<sup>い</sup>て<sup>摩</sup>利<sup>り</sup>支<sup>し</sup>天<sup>てん</sup>とい<sup>ひ</sup>ひ<sup>て</sup>  
 軍<sup>ぐん</sup>神<sup>じん</sup>として<sup>祀</sup>祀<sup>まつ</sup>る<sup>もの</sup>  
 此<sup>この</sup>の<sup>神</sup>神<sup>かみ</sup>あり<sup>べ</sup>  
 木星<sup>もくせい</sup>とジュピタル<sup>といふ</sup>も<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>神<sup>しん</sup>名<sup>な</sup>み<sup>い</sup>て<sup>シ</sup>ユ<sup>ピ</sup>タル<sup>といふ</sup>も<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>神<sup>しん</sup>名<sup>な</sup>み<sup>い</sup>て<sup>ギ</sup>リ





シヤ教めて至尊至貴  
 の神ふしてサキユル  
 ンといふ神の子なり  
 といふ  
 土星をサキユルン



サキユルン



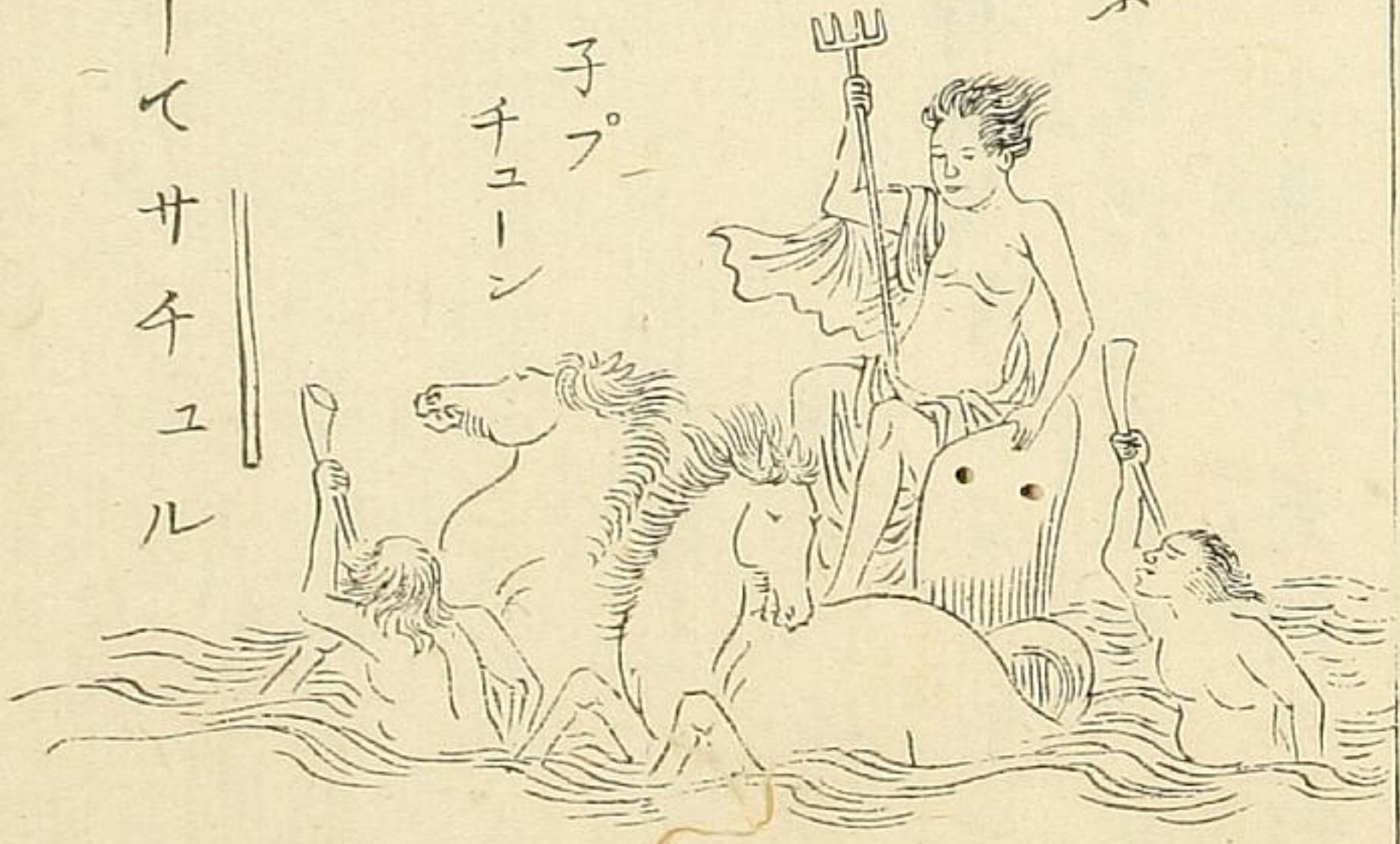
ジュピタル

といふこの神をジュピ  
 タルの為ふ天上の帝座  
 と逐退けらる此世界ふ  
 降りてイタリヤ國あて

土人子耕作及び其他の技  
 術を教へたる神なりといふ  
 天王星をユラニユスと  
 いふユラニユスを最も  
 古き神ふして地神の夫  
 みの父なりといふ



ユラニユス



子プ  
キユルン



海王星を子プネロンといふ子プネロンを  
 江海を司とて神みてサキユルンの子ジユピタ  
 ルの兄弟なり其他百余の小行星天后穀女等の  
 如きまことま配する女神の名を以てせり  
 今一々其名を奉んハ甚ど煩くまバ姑くま  
 と略せりまと彗星とコムメットといふハ髪を  
 コトといふラテン語より轉するものにて即ち  
 髮星といふまありま天河をミルキーウ  
 エーといふまハ乳道といふ義あり天河の形

容と論へるものありまガラクシーともい  
 ふまきもギリシヤ語より轉する詞ありま  
 ルキーウエーと同一のあり

西洋十二月の名義

西洋あり十二月各名あること恰も我邦の月  
 月名ありて陸月如月等といへるが如く其名  
 義ハニユローマ國より起するものあり第一月  
 とゼニユラリーといふ名ローマ國ありて祀る處  
 のゼニユスといふ神より起りて此神ハ一身



ふして二首ありその一首ハ老翁めて顔面皴み  
 て色黒く他の一首ハ少年ふして紅顔あり其老  
 とる首ハ後ハ向ひ若きものハ前ハ向へりあ  
 て此神の名を第一月ハ命ととるものハ其一首  
 ハ旧年と顧之他の一首ハ新年ハ對せしが如き  
 と以てあり第二月とフエベリユエリーといふ  
 こをローマ語にて楔とす月といふ事あり此  
 月をローマの人其罪業と除らんが為神ハ犠牲  
 と供さる時ふきバあり第三月ハマルチといふ

まきハ昔此月と以て一年の第一月として軍神  
 マルスと祀りしこの故ハあの月とマルチと  
 以へり第四月とアプリルといふローマ語あり  
 アプエリールといふハ開くのこゝろめてアプ  
 リルを開く月といふ事あり此月ハ草木葉を出  
 し花を開くが故あり凡そ十二月の中めて只此  
 月のみ天然の発象ふよつて各づけしものふ  
 て自餘の月ハ神或ハ帝ハ関係する事或ハ月の  
 順序等ふよつて名を付するものなり第五月と



マイと云ひ第六月をジュリオンといふこの二月  
 の名をローマ第一の帝ロシユリユスの世に  
 シヨレス、シユニロレスといひ二人の議官あ  
 りて國政を補佐し大きき其功ありしに帝の  
 の二人を敬重して其名を月ふ配ししりといふ  
 第七月をジュリーといふこきもローマ帝ジュ  
 リユース、セーサル大陰曆を改革して大陽曆を  
 制りしに故其功業を稱して將軍マルクアン  
 トニー帝の名を以て此月の名とせり第八月を

オーガストといふ出き名ジュリユース、セーサル  
 の遺志を継て國政改革を完全せしオーガスト  
 帝の功を稱して議官其名を月ふ配ししり第九  
 月をセプテムバルといふセプテムを七といふ  
 事あり即ちマルチより第七の月ふ當をバあり  
 第十月をオクトーバルといふオクトを八とい  
 ふ事あり出きもマルチより第八の月あり故  
 あり第十一月をノーベムバルといふノーベム  
 を九といふ事あり第九月の義あり即ちマルチ

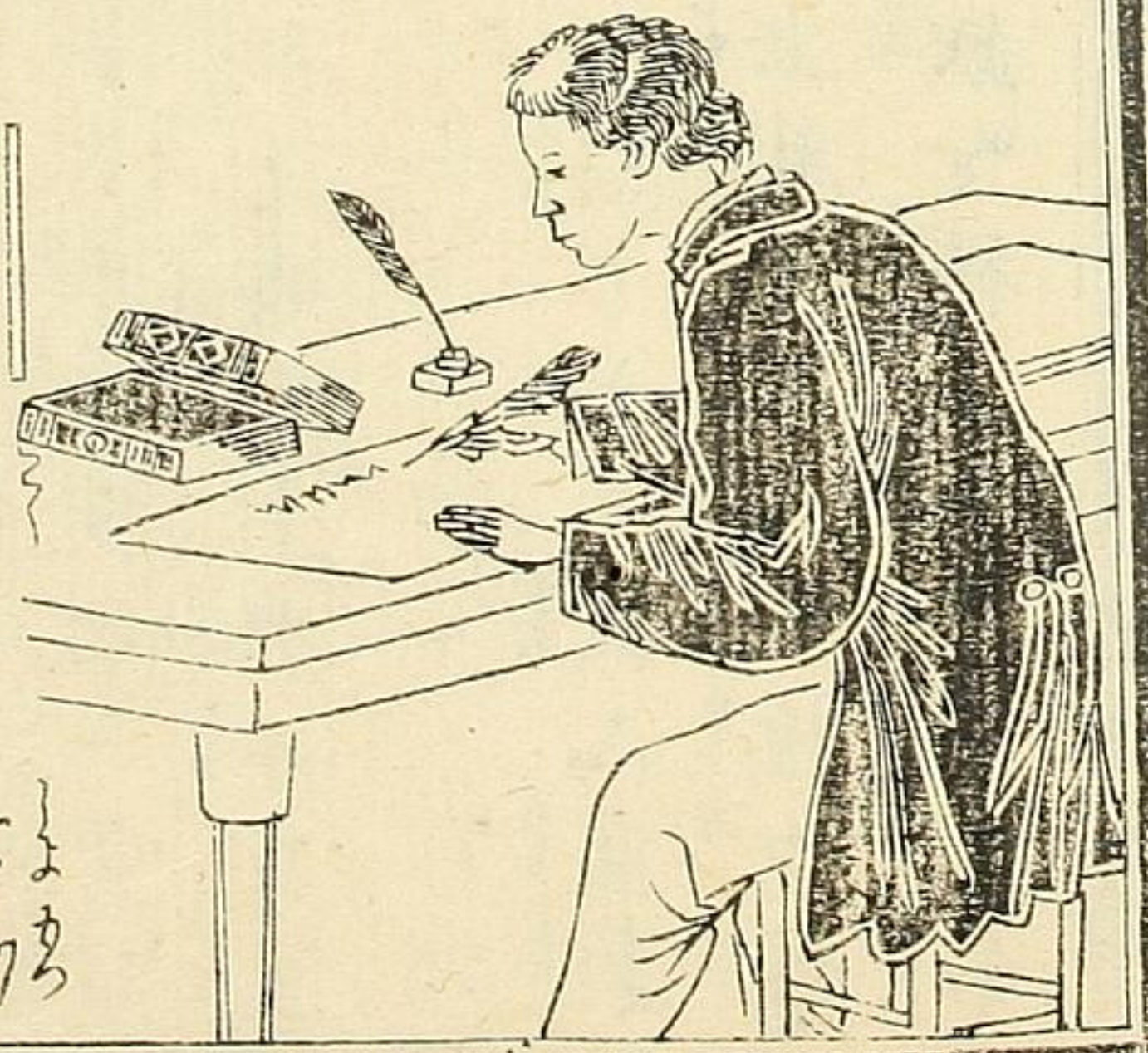


より第九の月（九月）に當きバあり。第十二月（十二月）をテセム  
 バルといふ。デセムを十（十）といふ事（事）めて第十月の  
 ありろあり。セプテムバルよりテセムバルまで  
 の四月ハ其名義今の月（月）に合（合）してハ順序（順序）を失（失）ひ  
 くりといへども。曆法改正以前（以前）の名（名）と其終（終）不用  
 ぬるものあり。

紙書物等の名義

西洋（西洋）みて昔時紙（昔時紙）を制（制）はる方（方）を知（知）ざりし世（世）も工  
 ジプト國（ジプト國）みて葦（葦）の内皮（内皮）を取（取）てこそ（こそ）文字（文字）を書（書）

きくり。この内皮（内皮）をパピ  
 リユス（リユス）といへり。今紙（今紙）をへ  
 パル（パル）といふ者（者）パピリユ  
 スより轉（轉）きしものあり。ま  
 と木の葉（木の葉）小書（小書）と認め（認め）事（事）  
 もありて今も書物（書物）の一（一）枚（枚）  
 二枚（二枚）と一葉（一葉）二葉（二葉）といふ。まろ一國（一國）みて書物  
 とリール（リール）といひしより英國（英國）み於（於）て書庫（書庫）をリ  
 ブラリー（ブラリー）といふ。ま昔ハ（昔ハ）獸皮（獸皮）小書（小書）を寫（寫）しこそ





を巻収めて其巻をホリユメンと名づけたり。この古語傳ハリて小冊子をホリユムと以ふあり。また木の内皮を文字を記せし事ありて英國に於てハ山毛榉の皮を用ゐてこの皮をボツクといへり。こは今書物をボツクと唱ふる原因あり

恒信風の名義

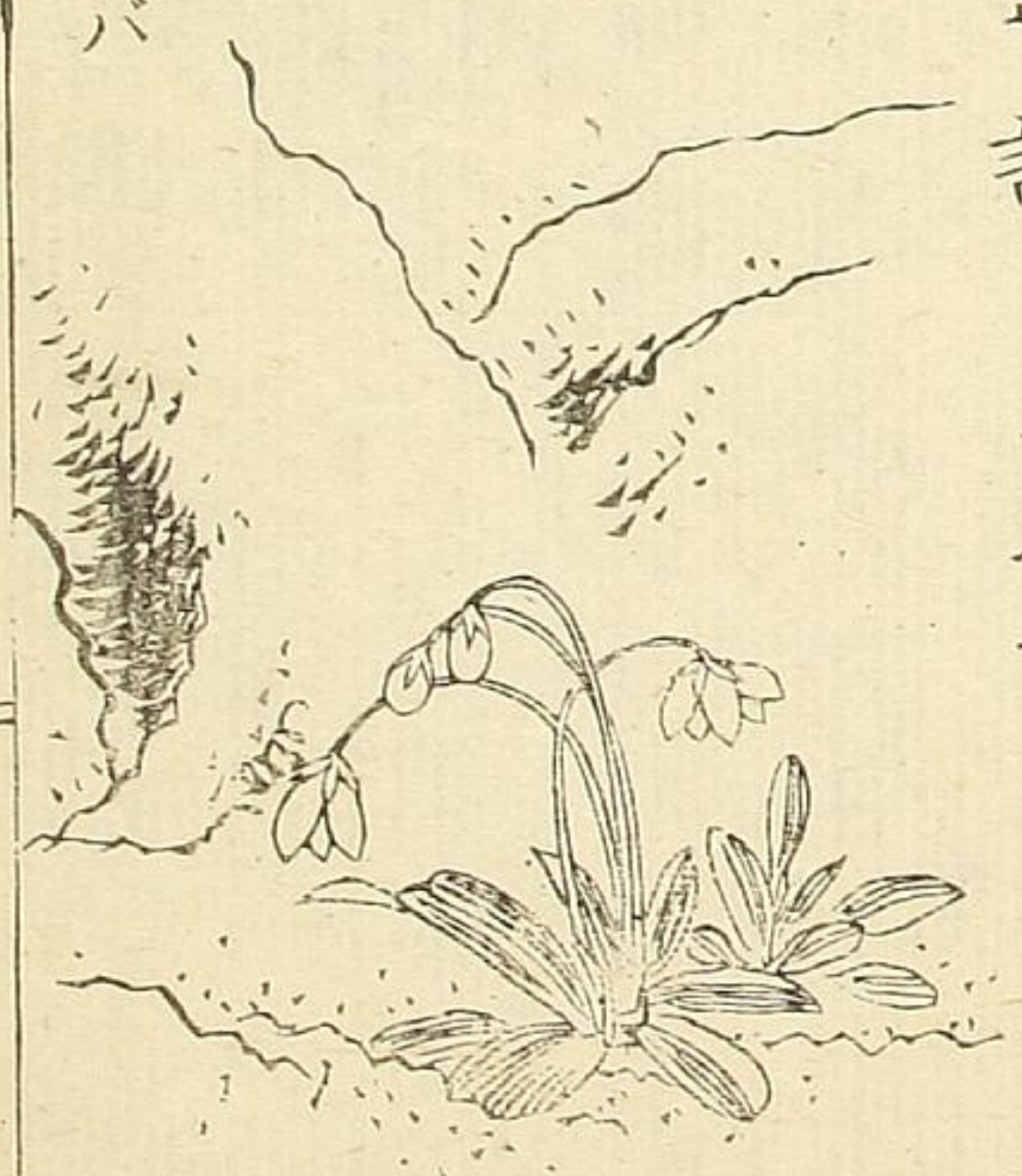
赤道近傍の地ハ日熱常ハ烈しき故ハ空氣熱を受て軽くあり絶え以上昇るをバ兩極の地より冷濃の空氣来りて其欬を補ふ若地球運動

まゝ事なくバ風ハ常ハ正南正北より赤道に向ひて吹べき道理あり。此地球東に向ひて運動しり。故ハ赤道以北の地ハ在てハ風常ハ西南ハ吹き以南ハ在てハ西北ハ吹き四時常ハ方向を變じし事あり之を名づけて恒信風と以ふ。其その方向一定し。故ハ洋人貿易の爲め諸國ハ航路の便利とあり。以てまゝ此風を貿易風と云り。貿易風の原名をトレードウインドあり。あつてハ亞板コル子ル氏の地理誌と見る



彼のトレード、ウインドの名義を解り甚ど  
 異あり其説ふトレードといふ詞ハ昔時トレ  
 キある詞と同意不用めて其トレードキある詞ハ  
 蹤跡といふ意めて此風常ニ方向同トク其蹤跡  
 と逐ひて吹くが如きを以て其名ありといへり  
 トレードウインドを貿易風と譯せるハ皇國の  
 人のみあり洋人の譯せし書おもふと未だり  
 其孰きは是ありと知らば余神戸に遊びし時こ  
 せと英人ホール氏に質ひふ、ゴル子ル氏の説の

如きハ同人も始めて去きを見るより今迄  
 只貿易風の義ありとの思へりとして座右の諸  
 書を檢査せしるども其名義を記せしものあり  
 りしるを猶未だ其是非を詳らふにせざりし  
 スノードロップ  
 の事  
 下の図に出せる草花を  
 スノードロップといふ  
 ものふて寒さ終に退けバ





百草ひやくそう先立さきだちて花はなを発ひらき暄暖あたたかの候とき将まさ小至こらんと  
 けりるを報しるげるふ似にたり。詩人しじんハ之これを花はなの晨星しんせいと  
 号なづけり。ギリシヤギリシヤあてハ乳花うしなといふ此花このはな白色はくしきあり  
 と以もつてあり。フランスフランスススまてハ雪ゆき錐つねと呼よぶあり。古  
 昔そのむかしハ其茎葉そのくき強つよくして雪ゆきを貫つぬき発はつ生せいまきまきバあり  
 此名このな佳よあらざらずふあらざらずききども別べつ小異い名なあり  
 て最もつも簡雅かんがありとけりるものハ二月ふにがつの佳人うじんとい  
 ふ名なあり此花このはな時ときあつてハ第一だいいち月げつふ花はなを発ひらく事こと  
 ありと雖いへども第二だいにがつ月げつふ開ひらくと常つねとけりるが故ゆゑあり

志こゝろあまきバ此花このはなハ百花ひやくはなの魁さきかけふして梅花ばいげもこきと  
 弟あとうとふし難がたうるべし

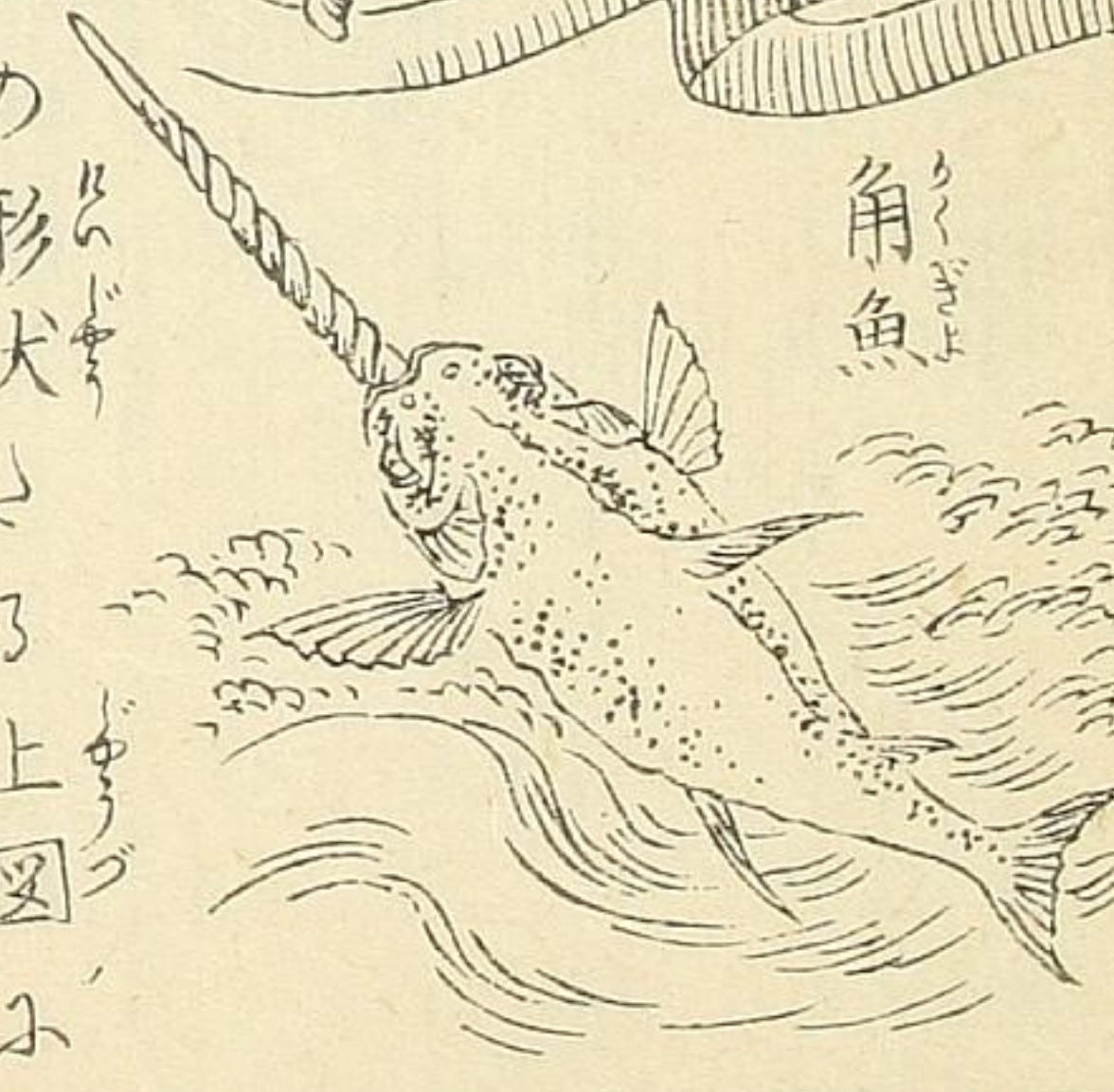
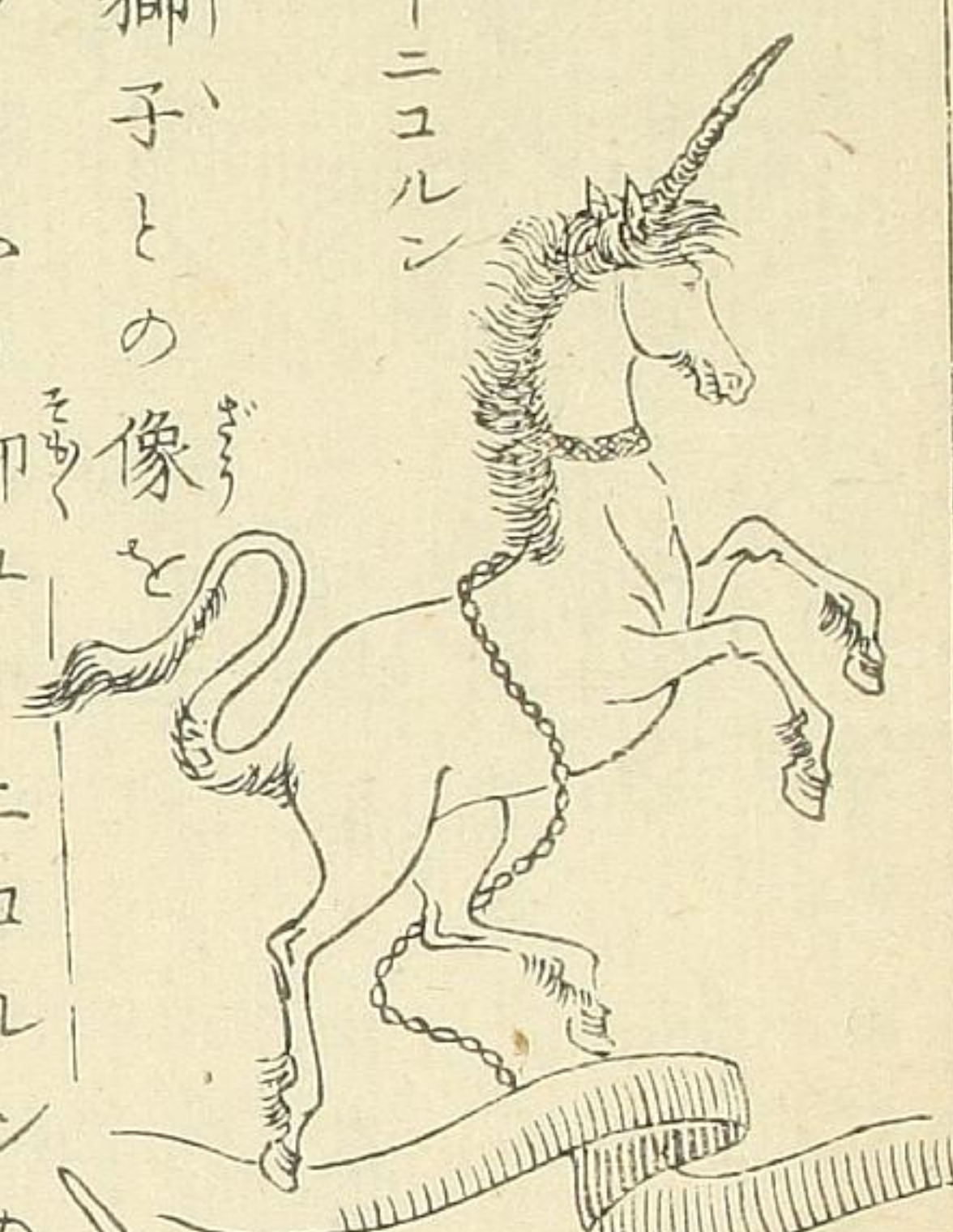
ウニコールの事

ウニコールウニコールといひて俗ぞう小解熱劑くわいねつざいとせらるものハ  
 角魚かくぎよといふ魚うしの角つうあり西洋せいやうふてユーニコールユーニコール  
 といふものハ支那しなあて麒麟鳳凰きりんほうおうふといふもの  
 の如ごとき神獸しんじゆあて其靈威そのせいありて能よく物ものを防ふせぎ守まも  
 りといふ意いあて官職くわんしやくの記号きごうふと小なけものと  
 いふ即すなはちち英國えいこくあて官印くわんいん其他そのの記章きしょうふこの神獸しんじゆ



と獅子との像と  
用ゆるあり抑ユ一ニコルンの形状と上図  
示せる如く馬小似て色白く頭小一角あり  
るは昔時ハ角魚の角を其の神獣の角なり  
て志ありこの獣の神靈ありハ其角小ありもの

ユ一ニコルン



角魚

とて甚ど高價と以て賣買トこまを藏とるもの  
ハ珍宝として其真物あるを誇りて後角魚と  
渙ゆるふよつて其の角の出所知らきて真のユ  
一ニコルンと猶人間世界へハ頭なきもの  
ふまゝの、は妄説より角魚をシイユ一ニコル  
ンともいふとぞ皇國の俗まきを解熱劑として  
高價と以て鬻ぐものありこまもまゝ誤謬あり  
實ニ其効驗ある事あり  
各國の古傳并ニ土人未來想像の事



開闢の初めハ慥ニ知ベシト云々ざると以テ萬國の  
 歴史大抵自國を世界の宗國トシテ他國を以テ  
 後ニ開リたるものト云々なるものナリ。フイジ島の  
 如キ太平洋中の小島あるニ猶古傳を傳へて世  
 界第一の旧國ト唱ふ其古傳ト如何ト云々太  
 古の時神あり釣を以テこの島を海底より釣上  
 たり云々云々釣の糸の絶レガ故ニ此島海面を  
 出ル事甚高リト云々ざるなりといへり今も其釣を  
 祀リテ神ト云々云々を古傳の虚云々ざる證拠

と云々云々西洋人此島不到リト時この古傳を聞  
 て神古の嶋を釣上ル時ハ何処ニ立テ云々云々問  
 子云々云々云々答云々云々其釣を見云々云々  
 鼈甲を以テ造リ云々云々バカハ島を釣上ル云々  
 の鼈甲の折云々云々何故ぞと問云々云々其神官  
 答へて云々云々嗚呼云々何の言云々云々ハ其神  
 聖の釣云々云々バカハ云々云々釣上ベシト云々  
 云々云々何故云々云々其の縁の断云々云々やと問へバカ  
 神を嘲リ云々云々神怒リて汝を蹴殺スベシ云々



と以ひて脅りたりぞ、まゝ開闢の世大洪水ありて世界を沈め人種一旦殄滅せし時一家族のこまを免がましりありて、その氏族より萬國の人民を廣めしといひて其國の王族ふどと其生残りしものといふ國々あり中もノアの如きは最も較著ふるものありまゝ萬國の人ハ太抵善と不善と常に相争ひて終に善ハ不善ハ少勝べきものと思へりまゝ死後の觀樂を願ふと萬國も大りと然り志らるる其想像も風

俗よらて各異ふ黒人の死後々あはば白人の再生まべきものと思ひマホメット宗の人の死まきバ極樂ふゆきて歡樂極りまきものと思ひ、アメリカの土人の如きは此世を去りて後ハ廣漠無際くわんもくむさいの獵場うりばふゆきて其処ハ禽獸きんじうも甚ど多く放つ處の矢も常ふその規かぎと失とばりて獲物ハ以つもの丘陵きやうりやうの如く其樂最も深うべしと思へりまゝヤソ宗の人ハ死して後ハ天てんに昇り幸福涯さいがいりあは災害曾さうがいて到らざるものと想像せ



人幼稚より絶て人間不交らざれば智力  
少くも増ざる事

人の智恵ハ目不見耳不聞くと云ふの事物不よ  
つて感発せざるものなきバ寂莫と云ふ山村不成長

せる人ハ繁盛なる都會の地ニ生育せざる事  
人より其智力少きものありさきバ人幼稚より

絶て人間不交らざれば其智発せざる事ありん  
其的例と云ふは英國のカスパルホーセルと

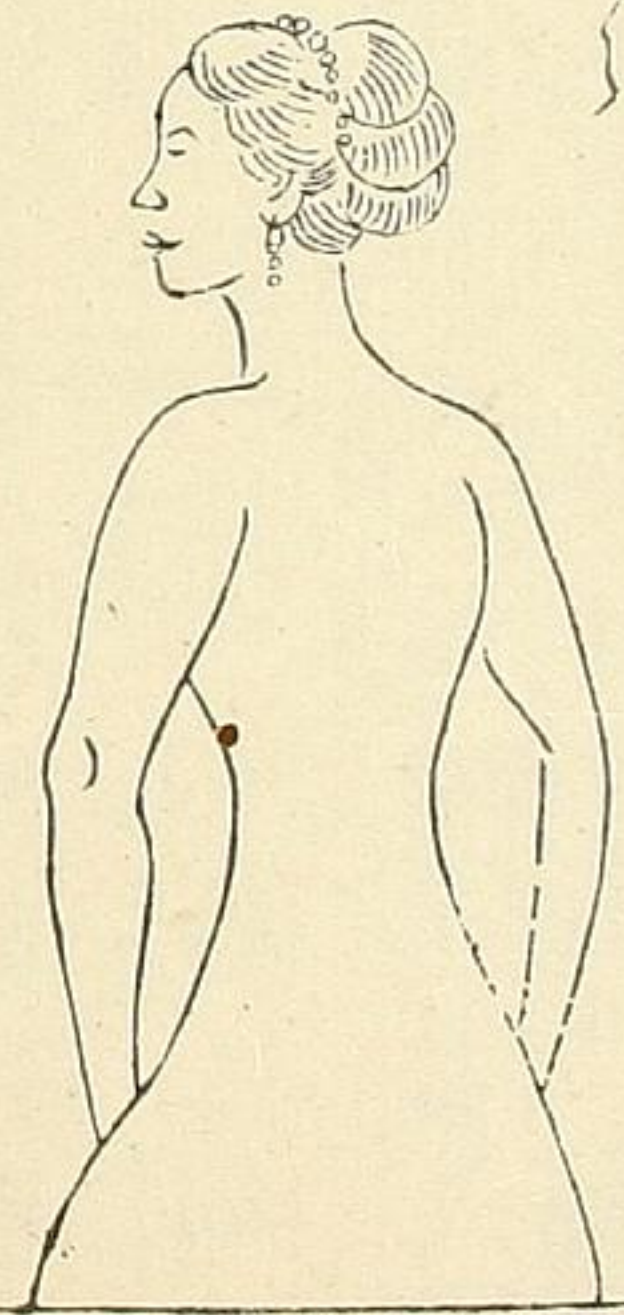
以ふ人ありよの人ある事故ありて未詳幼稚の  
時より暗室中に入き居て番人の貞き見  
る事もありりよ十四五年の後赦免を得て初  
めて獄と出たりしが其身体ハ已不成人とあり  
たりといへども其心意を更不稚子不異ある事  
ありり然る不世に出て人と交る不隨ハ精神  
俄く不発動して智力忽ち増長したりといふ

西洋の婦人胸部細少ある事

支那の女ハ其足の細小なるを称するが故不幼



少の時より其足と締て大いあゝ志めざるを以て西洋みて五歳むりの小児の着る沓と支那の成長せる女不穿しむべし。尚て西洋の風俗として女の胸部細小あると尚ぶが故幼稚の時より其胸と束縛して大いあゝしめざるが故西洋の女の胸部細小ある事ハ支那の五歳むりなる女児不異あゝべし。こま兩國女子の弊習あり



萬國言語の事

世界萬國の言語千差萬別あり有名なる地理家バルビといふ人の算定ハ凡そ八百六十種の言語ありて其舌調を分てバ五千種も到るべし。其中アジヤ洲ハ一百五十三種エーロッパ洲ハ五十三種アフリカ洲ハ一百十四種アメリカ洲ハ四百二十三種大洋洲ハ一百十七種ありといへりアジヤ洲の中めて最も善き語と称するものハアラビヤ語ペルシヤ語サンスクリット即



ち天竺語是ありまゝとエーロッパ洲めてハフラ  
ンス語イタリヤ語イギリス語ゼルマン語あり  
世界中ハ廣く用ゐらるゝものハ英語ハ及ぶも  
のふゝまゝとこきと談はる人負の多きものハ支  
那語ハ志くものあり

西洋文字の事

西洋の文字も其初めハ諸物の形象を畫きてそ  
きと言語の記号とあせし起りたり假令ハA  
の字ハ牛の頭ハ象どりBの字ハ庫の状と寫し

Cの字ハ手掌の凹める模様ハ象とくゝと等  
如くありまゝと文字の數各國ハ於て多少あり  
スラホニカ語ハヘシヤホラ語ハ五十七字と  
用ゐアラビヤ語ハ二十八字を用ゐペルシヤ語  
ハ三十一字ユフチカ語族の言語種を三十二字  
トルコ語ハ三十三字モスコローテ語ハ四十三  
字エヂチピヤ語ハ二百の二字ありまゝとイスパ  
ニヤハ五十五字ギリシヤハ五十四字フラ  
ンスハ二十三字ラテンハ二十二字イタリ

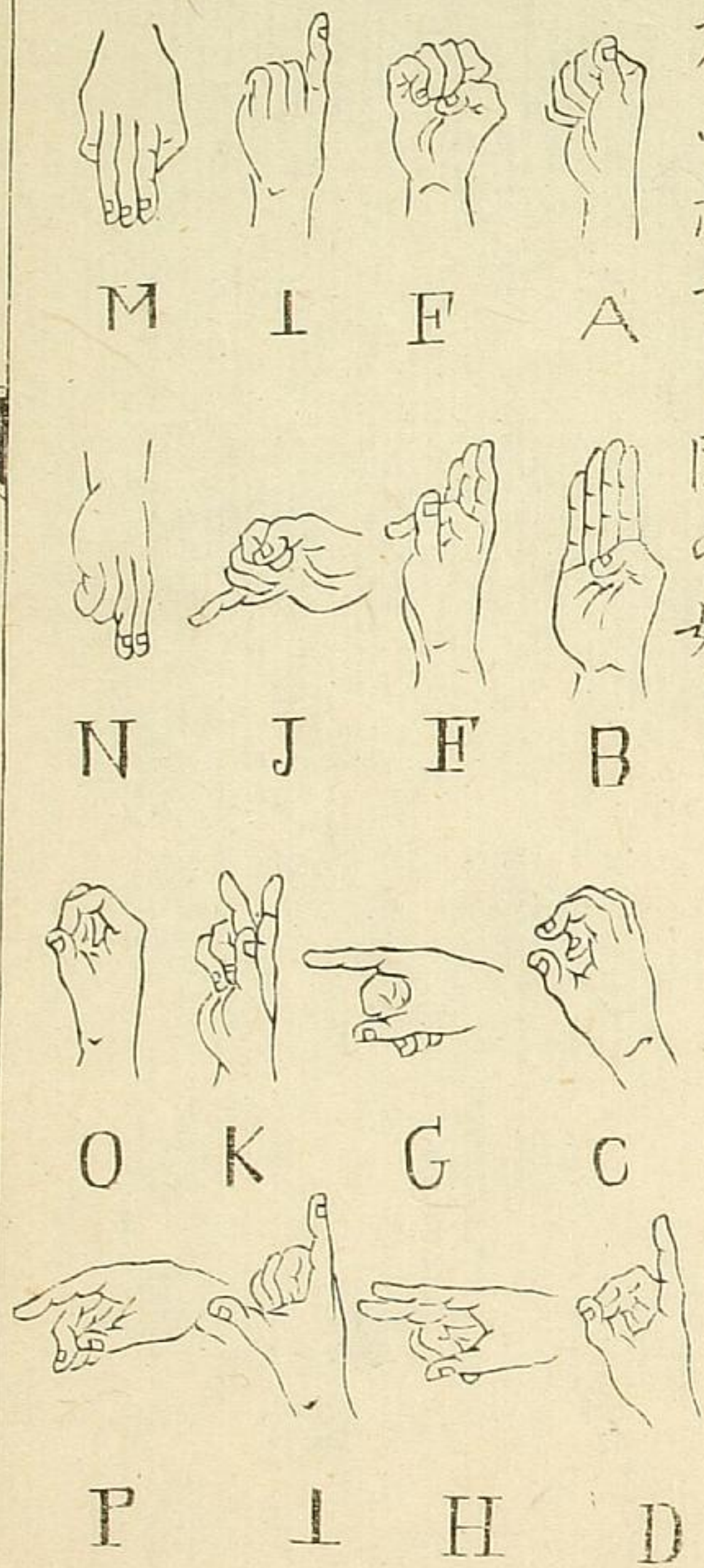


ヤムを二十字英國の二十六字あり。また文字  
 の全數を總稱してアルハベツトといふ。こまを  
 ギリシヤみく其國字二十四字の初めあるアル  
 ハベトといふ二字を取て總字の名とあせし  
 より起まらあり。こまを英國の二十六字の初め  
 三字を取て全數二十六字を總稱してエビシと  
 いひ皇國ふても四十七字といろはと唱ふると  
 同例あり

西洋の啞者或ハ聾者と談ぶる時の文

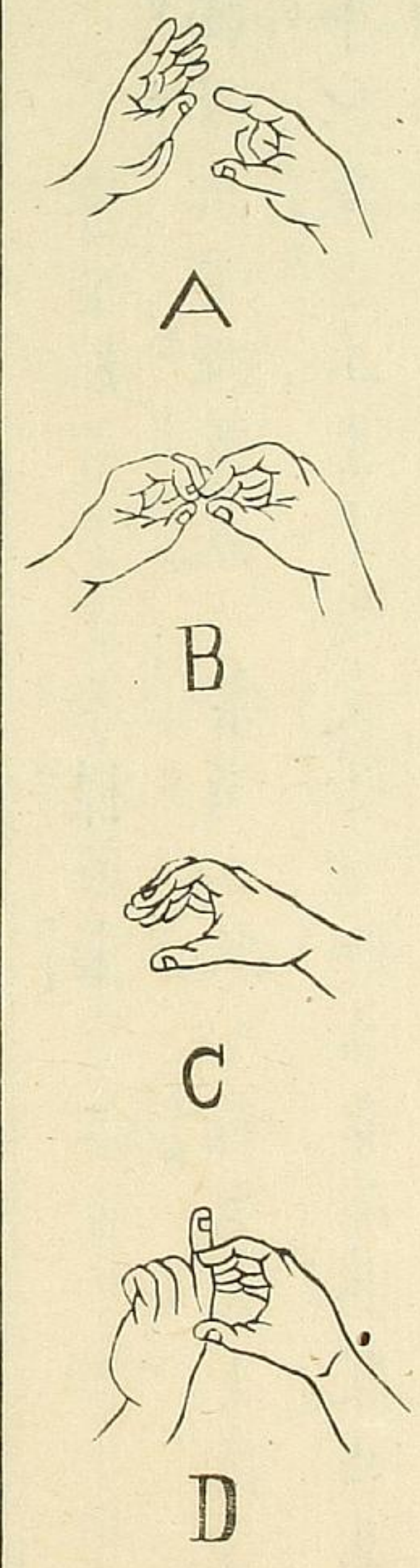
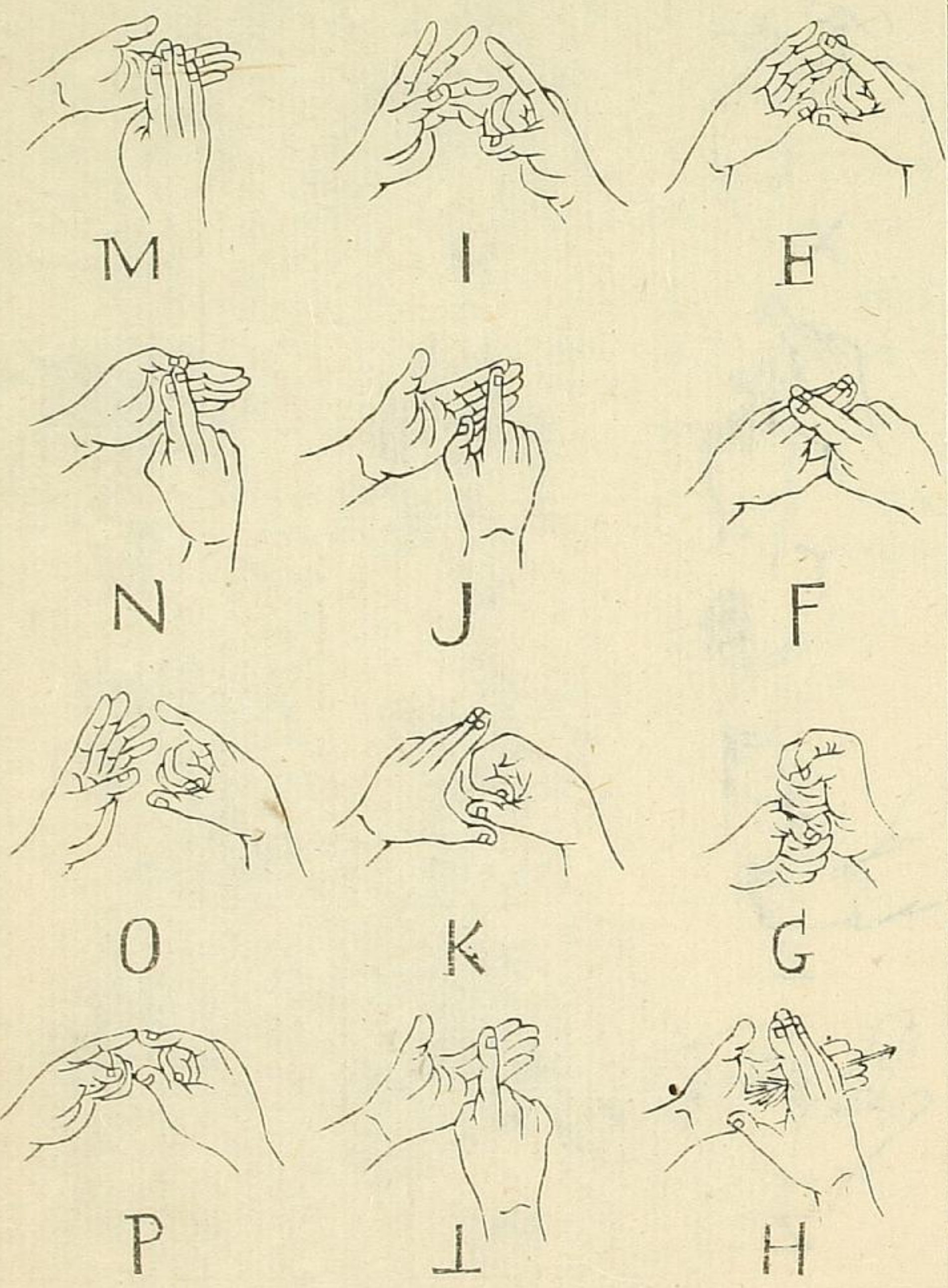
字を知らざる手様の事

西洋の啞者或ハ聾者小物を話さんと其時  
 手を様々あして文字を知らざる其定めあり  
 左小示せる圖の如し

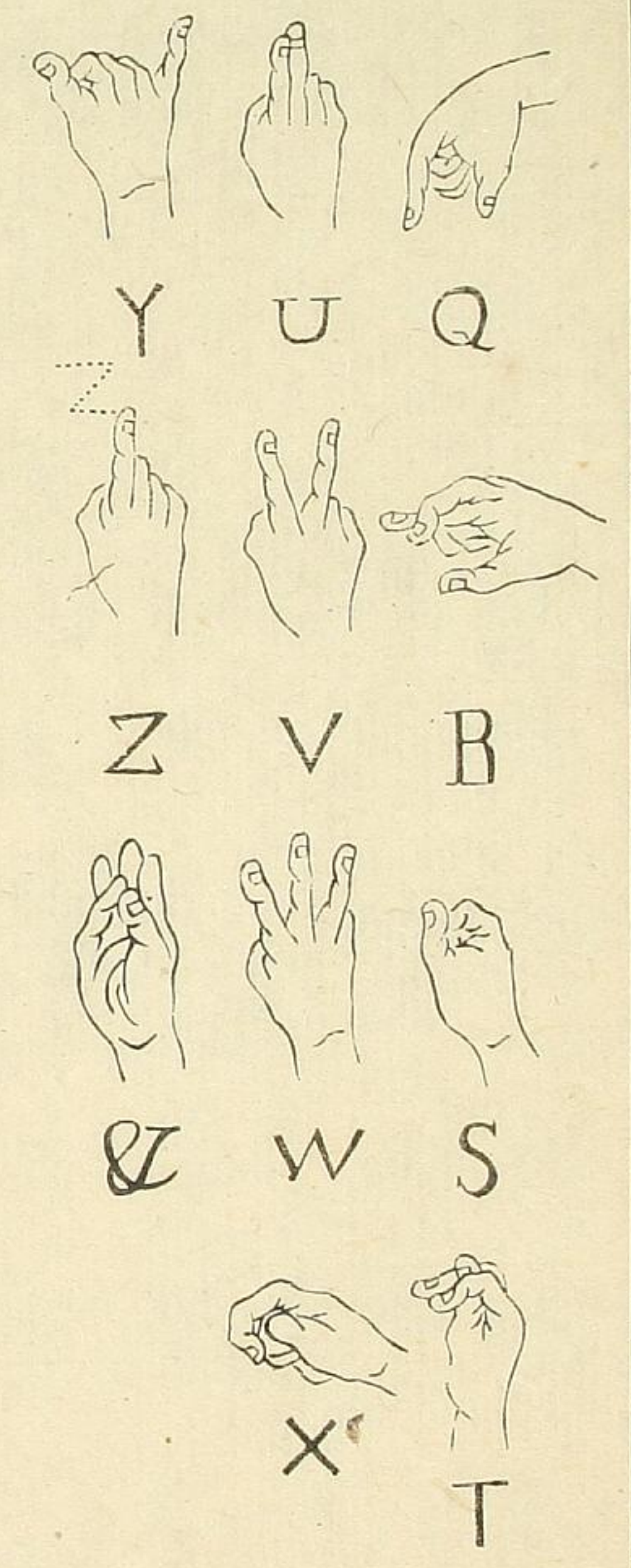




右ハ片手の文字



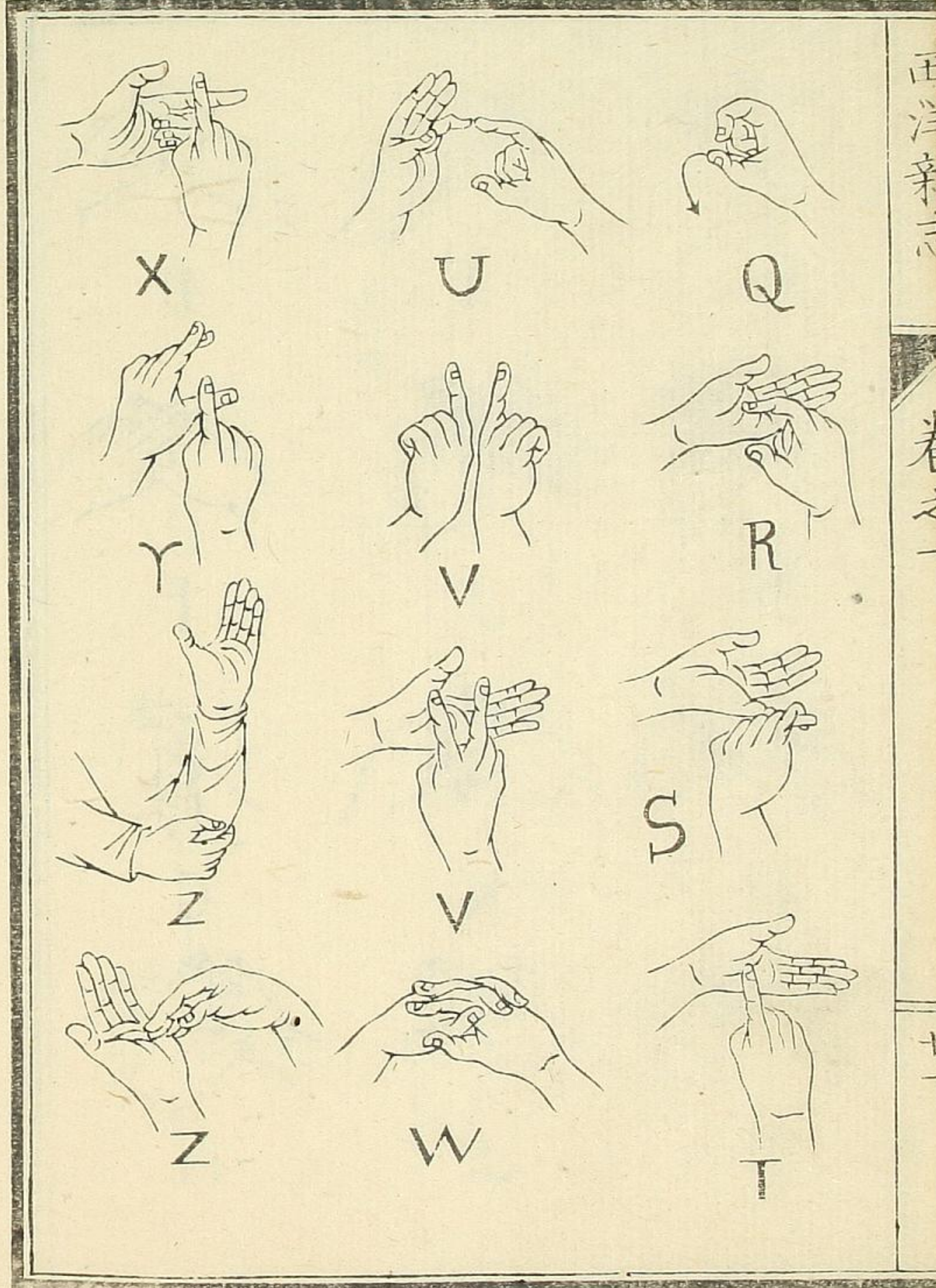
右ハ片手の文字



右ハ片手の文字

十一





右ハ両手の文字

洋詩の事

西洋の詩も本朝の

和歌支那の詩

其趣相似

一句のものあり

數句と合せ

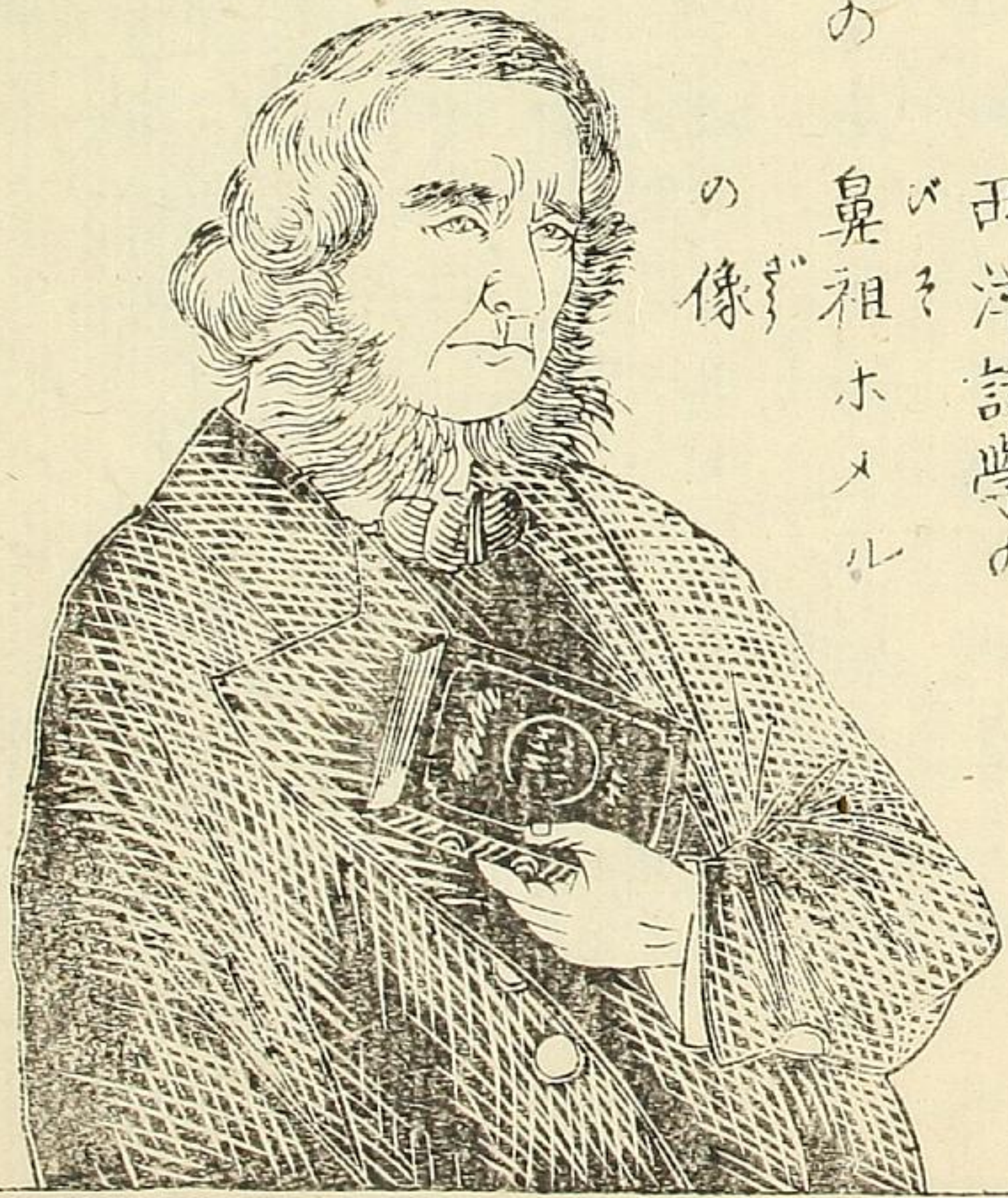
ものあり句の終

ハ韻と合はと例

西洋詩學の

鼻祖ホメル

の像





といふ事支那の詩より似たり、四句一韻のものあり、二句ごとく二韻と轉ぜりものあり、また四句の詩、第一句第三句と同韻とし、第二第四句同韻とす、事あり、去りまじも、韻小拘らざりものもあり、また詩句の中六箇の綴字ありものあり、或ハ七箇の綴字ありものあり、或ハ九箇の綴字ありものあり、て、恰も支那の詩、五言六言等の句あるが如し、この綴字の中、綴り入るゝ母音、小長短の別ありて、去きと長綴字短

綴字といひ、互小こまを置替へ、或ハ長々短短々々長ふど、ち、事、ま、支那の詩、平仄の声と分つて字を連ぬるが如し、また長短二箇の綴字を合せて、去きと二箇綴字の音量といひ、短々長或ハ長々短或ハ短長短或ハ長短長と組合せ、と三箇綴字の音量といふ、この音量を連合して六綴字七綴字或ハ八綴字九綴字、ホの一句を、以事ハ支那の七言の詩、句中二言二言三言と字と連ぬるが如し、また人名などの文字を分ちて

日本書紀 卷之十一 十一



去きを句頭或ハ句末に置きて作きし詩ありて  
 和歌の折句といふものと異ありぬものありま  
 と和歌おハせんりよふみ浪といふ方お詞に言ふけ  
 あり末去る雲と未と知ら言けふと白雲ふとい  
 へる事常ふ多し洋詩ありま斯の如きものあ  
 りて假令バ茶瓶と英語みけ千イポットといひ  
 置くといふ詞もポットといふ今二つの詞同ト  
 声あるが故茶瓶を置くといふ時一つのポット  
 ある詞を略して一語ふ両意を兼むるが如し

西洋雜誌初集終

48-13798

西洋雜誌 二集  
 三集

追刻

新改正大増補 中川泉壽訂正  
 真草早引大成 銅鑿四刻目

書之書多ト雖モ此書ハ解レ難キ真草ヲ共ニ辨カス  
 之真字省寫法ト奇體變射ト悉ク之ヲ其下ニ書載レ音義訓讀  
 別義等漏サズ片假名ヲ以テ詳辨シ御布令告諭及ヒ萬國新聞  
 日詩等之字義且通用俗字モ漏ス莫ク俗間書牘ニ使用ナラシ  
 字傍ニ聲ヲ附レ詩賦文雅ノル上ニ供ヘ銅版ニ縮製シテ旅中速  
 用ノ一助トス其益アリテ便捷ナルヲ實ニ此書ニ勝ルハアラシト云爾  
 殊ニ西洋各國ノ人々日本語言ヲ學ビ辨ニ至極有益ノ書也



和歌山縣

鳥山啓纂緝

大坂府下

松川半山畫

京都府下

由良重兵衛彫

紀元二千五百三十三年

飾磨縣御用上木所

小川金助

東京

大坂

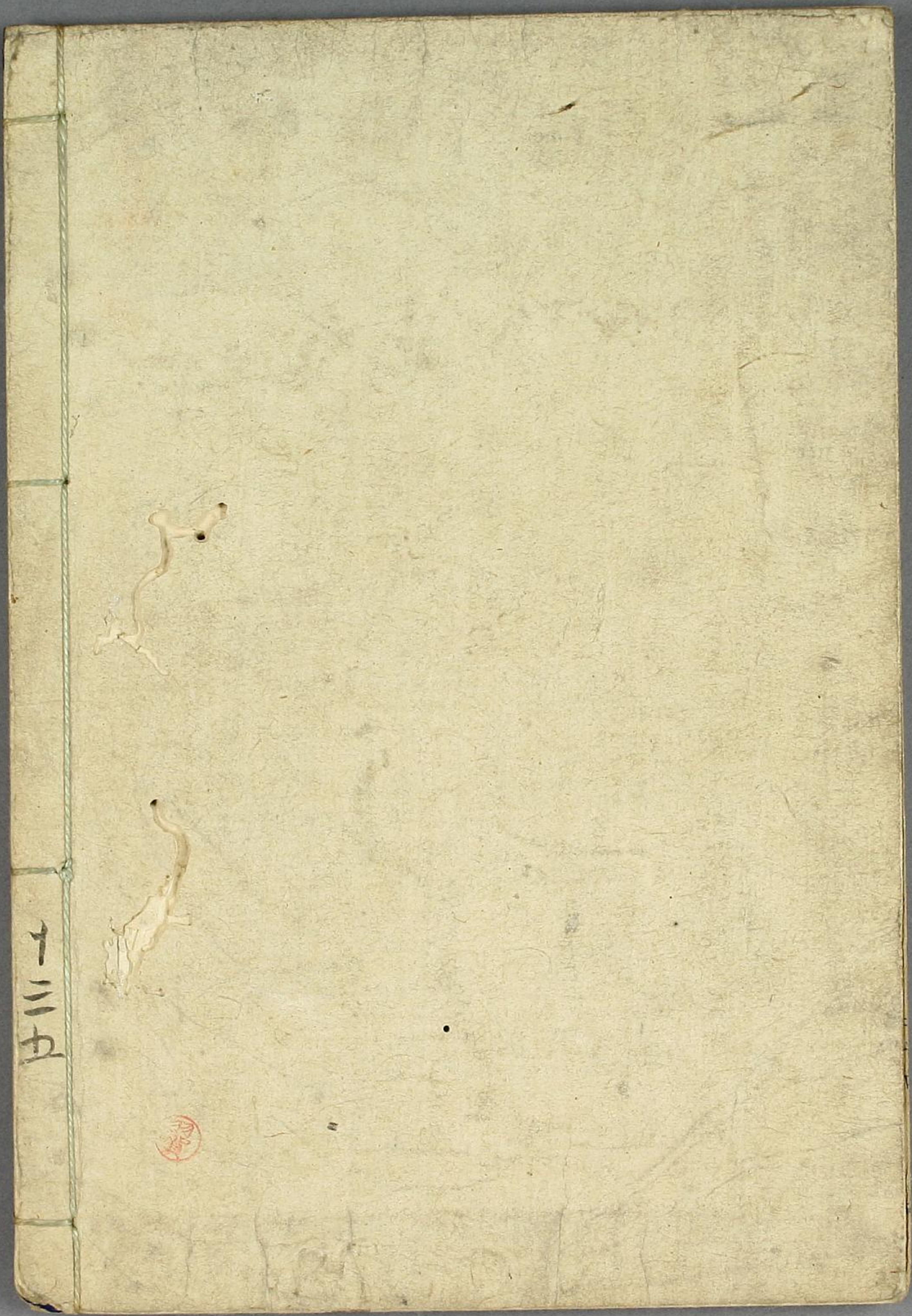
西京

第二書友社

中	中	止	神	村	岡	柳	太	佐	稻	北
西	川	本	先	上	田	原	田	久	田	畠
嘉	藤	九	宗	勘	茂	喜	金	嘉	佐	茂
	四	兵	兵	兵	兵	兵	右		兵	兵
助	郎	衛	八	衛	衛	衛	門	七	衛	衛

010190528095





十一  
五

